

政務活動報告書

活動事項	<p>① これからの教育の在り方についての研究 マイクロステップ法の実践について</p> <p>② これからの教育の在り方についての研究 ICT教育の在り方について</p> <p>③ これからの教育の在り方についての研究 オルタナティブ・スクール「シュタイナー学園」の視察</p> <p>④ 合区の早期解消促進大会への参加</p> <p>⑤ これからの教育の在り方についての研究 これからの日本・憲法と教育の危機 前川喜平氏・寺脇研氏講演に参加</p>
活動年月日	平成30年4月25日(水)～27日(土)
場 所	<p>① 高森町教育委員会 下伊那郡高森町下市田 2183</p> <p>② Classi 株式会社 新宿区西新宿 2丁目 1-1 新宿三井ビルディング 14階</p> <p>③ シュタイナー学園 相模原市緑区名倉 2805-1</p> <p>④ 全国町村会館 2階ホール 千代田区永田町 1-11-35</p> <p>⑤ 和歌山県文化会館 和歌山市小松原通 1-1</p>
活動の相手方	<p>① 高森町副町長 前島登志夫氏 高森町総務課情報係主査 平沢元啓氏</p> <p>② Classi 株式会社マーケティング部部长 林部貴亮氏</p> <p>③ シュタイナー学園の先生方</p> <p>④ 全国知事会主催</p> <p>⑤ 講師 前文部科学事務次官 前川喜平氏 京都造形芸術大学教授 寺脇賢氏 コーディネーター 和歌山大学名誉教授 堀内秀雄氏</p>
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <p>① 脳の認知科学をベースにした、効果的で効率的な記憶法であるマイクロステップ法の効果を調査し、鳥取県での導入に向けての参考にするため。</p> <p>② ICTを使った教育のあり方について話を聞き、鳥取県のICT教育導入の参考にするため。</p> <p>③ 公教育とは違った手法での教育の効果を調査し、公教育をより良いものに変えていく参考にするため。</p> <p>④ 合区を早期に解消するため。</p> <p>⑤ これからの教育のあり方について考える参考にするため。</p> <p>【内容】</p> <p>① マイクロステップ法を小中学校で導入している長野県の高森町で、導入の経過や準備、導入後の効果や課題について話を聞いた。</p> <p>② マイクロステップ法を岡山大学と連携して検証しているClassi(株)で、</p>

ICT教育とは何か、ICT教材をどのように使えば効果的なのか等の話を聞いた。

- ③ シュタイナー学園でシュタイナー教育について話を聞いた。
- ④ 全国知事会主催の「合区の早期解消促進大会」に参加した。
- ⑤ 「これからの日本・憲法と教育の危機 前川喜平氏・寺脇研氏講演」に参加した。

【結果（成果）等】

- ① マイクロステップ法は、毎日10分程度問題に取り組むだけで、着実に記憶が定着するという脳の仕組みを応用した学習法である。  
覚える努力せずに短時間の積み重ねだけで記憶が定着できるので、限られた学習時間を、調べたり考えたりすることに割くことができ、本来の意味の学習を進めることができる。  
導入にあたっては、一人ひとりにタブレット端末を支給すること、通信環境を整備することが必要であり、そのための財源確保が必要になる。  
また、結果が本人にもフィードバックされるので、成果が自分自身で確認できることで、やる気や自信が醸成されるが、その成果が表れるまで、2週間程度は継続させるよう子供たちのモチベーションを維持することが必要になる。  
こうしたことをクリアできれば、県内での導入は難しいことではない。  
とりあえず、倉吉市教育委員会と連携しながら、小さな実績を作っていく、導入の成果を目に見えることで普及を図っていききたいと思う。
- ② ICTを使った学習は、単に教科書やドリルをICT教材に置き換えるだけでは駄目で、ICT教材の特性（個々のレベルやペースに合わせることができる、場所や時間を選ばない、個別でも一斉でも使える、学習の成果が本人・家族・教師で共有できる、採点の手間が省ける、等々）を活かせるよう学習法を根本から変える必要がある。  
これからの教育のあり方として、こうした先端の技術を理解しながら、学習法に取り入れていくことが教育委員会や学校現場に求められており、引き続き、このことについて提言していきたい。
- ③ シュタイナー、モンテッソーリ等、日本の学習指導要領に依らない学習法に以前から興味があった。  
私たちは公教育以外の学習法をイロモノ扱いにしがちだが、シュタイナー教育は日本の公教育とは異なる理念や哲学に基づいているだけであり、その手法はどのような教育においても参考になるものである。こうした公教育以外の様々な教育についても、寛容になるべきだと思う。  
シュタイナー教育においては、発達段階に応じた様々な主体的な学び、芸術を柱にして豊かな感性を育てる教育、学びのためのより良い環境の整備等、公教育においても取り入れるべきところは多々あった。  
さらに研究を深め、公教育改革の参考にしていきたい。

	<p>④ 早期の合区の解消のために、これからも声をあげてゆく必要性を感じた。</p> <p>⑤ 直接に参考になるものではなかったが、国の教育行政の歪みなどの話が聞けた。</p>
関連領収書番号	4-15

# 合区の早期解消促進大会

平成30年4月27日(金) 11:00～  
全国町村会館 2階ホール

## 次 第

- 1 開 会
- 2 開 会 挨 拶  
全国町村会会長
- 3 合区解消に関する発言  
全国町村議会議長会  
全国町村会  
全国市議会議長会  
全国市長会  
全国都道府県議会議長会  
全国知事会
- 4 大会アピール  
全国町村議会議長会会長
- 5 来 賓 挨 拶  
自由民主党  
公明党  
立憲民主党  
希望の党  
民進党  
日本共産党  
日本維新の会  
沖縄の風
- 6 ま と め の 言 葉  
全国市長会会長
- 7 閉 会

# 政治と行政の歪みを追及してきた 前川喜平と寺脇研が熱く語る！



講演①

## 前川喜平氏

1955年1月奈良県御所市生まれ。  
1963年7月から東京で育つ。  
1979年3月東京大学法学部卒業、同年4月文部省に入省。  
大臣官房長、初等中等教育局長などを経て、2016年6月文部科学事務次官。2017年1月退官。  
著書：「これからの日本、これからの教育」ちくま新書（寺脇研との共著）



講演②

## 寺脇研氏

1952年7月福岡県生まれ。  
1975年3月東京大学法学部卒業、同年4月文部省入省。  
政策課長、大臣官房審議官（生涯学習政策担当）、文化庁文化部長などを経て、2006年11月退官。  
現在 京都造形芸術大学教授、映画評論家、NPO教育支援協会チーフ・コーディネーター。「キネマ旬報」でREVIEW欄を担当するなどさまざまなメディアに映画評を書く。  
著書：「中学生を救う30の方法」（講談社）、「21世紀の学校はこうなる」（新潮OH！文庫）、「格差時代を生きぬく教育」（ユビキタ・スタジオ）、「それでも、ゆとり教育は間違っていない」（扶桑社）、「官俵」がよくわかる本（アスコム）、「文部科学省」（中公新書ラクレ）、「これからの日本、これからの教育」（ちくま新書・共著）他多数

# これからの日本の 憲法と教育の危機

### ディスカッション

コーディネーター  
堀内秀雄氏  
(和歌山大学名誉教授)

2018

# 4/27 (金)

開場 午後5時30分  
開演 午後6時00分

## 会場が変更になりました！

# 和歌山県民文化会館 大ホール

入場無料(予約不要)

(和歌山市小松原通1丁目1 電話：073-436-1331)

主催 青年法律家協会和歌山支部

問い合わせ先 和歌山市六番丁24番地 ニッセイ和歌山ビル11階  
電話073-433-3980  
あすか綜合法律事務所(豊田泰史)

政務活動報告書

活動事項	① これからの教育の在り方研究 岡山大学大学院にて「これからの公教育の在り方議員勉強会」について発表
活動年月日	平成30年5月8日(火)
場所	① 岡山大学 岡山市北区津島中3-1-1
活動の相手方	① 岡山大学大学院教育学研究科教授 寺澤孝文氏 岡山大学大学院教育学研究科教授 稲田佳彦氏 岡山大学大学院教育学研究科教授 石原伸一氏 岡山大学大学院教育学研究科准教授 清田哲男氏
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <p>① 岡山大学教育学研究科の大学院生と教育の在り方について意見交換をするため。</p> <p>【内容】</p> <p>① 寺澤教授からの要請で、大学院の授業で「これからの公教育の在り方議員勉強会」について発表した後、授業のワークショップに参加した。</p> <p>【結果(成果)等】</p> <p>① 議員が主体となって教育の在り方について勉強会をしていることが珍しいということで、取り組みを紹介してほしいということだった。 、私の発表が大学院生たちの興味を引いたかどうかは疑問が残るが、発表後のワークショップと一緒に参加して、院生たちの素直な意見を聞くことができたことは非常に良かった。</p>
関連領収書番号	5-4

政務活動報告書

活動事項	① 県内外の人や企業をつなぐ活動 誘致企業 株式会社びーふる訪問
活動年月日	平成 30 年 5 月 11 日 (金)
場 所	① 株式会社びーふる 一宮市竈屋 2-6-23
活動の相手方	① 株式会社びーふる 代表取締役 前田直人氏 財務責任者 福江元秀氏
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <p>① 倉吉市に誘致が決まった(株)びーふるの今後の事業展開について話を聞くため。</p> <p>【内容】</p> <p>① (株)びーふるを訪問し、前田社長、福江財務責任者から話を聞いた。</p> <p>【結果(成果)等】</p> <p>① 倉吉市に2社目のフィギュアメーカーが来るということで、円形劇場との連携など大いに期待するものがあった。 事業所の土地・建物のことで、地元の不動産業者とトラブルになっているとの相談を受けて、倉吉市と県の担当者をつなぎ、何とか工場の開設にこぎつけることができた。</p>
関連領収書番号	5-4、5-5

政務活動報告書

<p>活動事項</p>	<p>① 県内外の人や企業をつなぐ活動 旧明倫小学校円形校舎の保存活用についての協力の依頼</p> <p>② 官民連携についての研究 美術館 PFI における県内企業の参入可能性についての調査</p> <p>③ これからの公立美術館の在り方についての研究 青森県立美術館における美術館の建築と展示内容の関係について</p> <p>④ これからの美術館の在り方についての研究 十和田市現代美術館における美術館の建築と展示内容の関係について</p> <p>⑤ これからの美術館の在り方についての研究 はちのへまちなかアートラボ Co 部屋における新美術館建設までの活動について</p> <p>⑥ 美術館についての研究 八戸ポータルミュージアム Hacchi の視察</p> <p>⑦ 美術館についての研究 リアス・アーク美術館の視察</p>
<p>活動年月日</p>	<p>平成 30 年 6 月 4 日 (月) ～6 日 (水)</p>
<p>場 所</p>	<p>① 松島哲装建築研究所 川崎市宮前区馬絹 530-10</p> <p>② ベックス株式会社 千代田区神田多町 2-2 神田 21 ビル 6F</p> <p>③ 青森県立美術館 青森市安田字近野 185</p> <p>④ 十和田市現代美術館 十和田市西二番町 10-9</p> <p>⑤ はちのへまちなかアートラボ Co 部屋 八戸市八日町 9 ダイヤビル 1F</p> <p>⑥ 八戸ポータルミュージアム Hacchi 八戸市三日町 11-1</p> <p>⑦ リアス・アーク美術館 気仙沼市赤岩牧沢 138-5</p>
<p>活動の相手方</p>	<p>① 松島哲装建築研究所 所長 松島哲装氏</p> <p>② ベックス株式会社 代表取締役 岡崎明晃氏</p> <p>③ 青森県立美術館 経営管理課長 小田切立人氏 美術企画課長 池田亨氏 学芸員 板倉容子氏</p> <p>④ 十和田市観光商工部観光推進課観光施設係 係長 成田聖徳氏 主事 滝沢裕希氏</p> <p>⑤ 八戸市まちづくり文化スポーツ部 新美術館建設推進室 室長 山田泰子氏</p> <p>⑥ 八戸市まちづくり文化スポーツ観光部 八戸ポータルミュージアム主任コーディネーター 柳沢拓哉氏</p> <p>⑦ リアス・アーク美術館 副館長 山内宏泰氏</p>
<p>目的・内容 ・結果等</p>	<p>【目的】</p> <p>① 旧明倫小学校円形校舎の保存活用についての協力の依頼のため。</p> <p>② 美術館 PFI における県内企業の参入可能性についての調査のため</p> <p>③ これからの公立美術館の在り方について、青森県立美術館における</p>



美術館の建築と展示内容の関係を調査するため

- ④ これからの美術館の在り方について、十和田市現代美術館における美術館の建築と展示内容の関係を調査するため
- ⑤ これからの美術館の在り方について、はちのへまちなかアートラボ Co 部屋における新美術館建設までの活動を調査するため
- ⑥ これからの美術館の在り方について、八戸ポータルミュージアム Hacchi の展示内容と果たしている役割について調査するため
- ⑦ これからの美術館の在り方について、リアス・アーク美術館の展示内容と果たしている役割について調査するため。

#### 【内容】

- ① 松島哲瑛建築研究所の松島所長を訪問。旧明倫小学校円形校舎の現状について報告し、今後について意見交換をした。
- ② ベックス株式会社の岡崎社長から話を聞いた。
- ③ 青森県立美術館を視察し、小田切課長、池田課長、板倉学芸員から話を聞いた。
- ④ 十和田市現代美術館を視察し、成田係長、滝沢主事から話を聞いた。
- ⑤ 八戸市立新美術館建設推進室の山田室長から話を聞いた。
- ⑥ 八戸ポータルミュージアム Hacchi を視察し、主任コーディネーターの柳沢氏から話を聞いた。
- ⑦ リアス・アーク美術館の山内副館長から話を聞いた。

#### 【結果（成果）等】

- ① 旧明倫小学校円形校舎の保存については、無料で独自に耐震診断をしていただいたりして、大変お世話になった松島氏（円形校舎を背一計下坂本鹿名夫建築研究所に勤務されていた）に、DOCOMOMO（モダン・ムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織。日本の近代建築の再評価の活動を行い、取り壊しが予定される近代建築について保存要望書を提出す等の保存活動に取り組んでいる）への登録など今後の保存活用について意見交換をした。その後、DOCOMOMO には登録されることとなった。
- ② 日本 PFI・PPP 協会主催の PFI・PPP スクールで名刺交換をした、PFI 事業のコンサルを行っているベックス（株）の岡崎社長に県立美術館規模の PFI では、地元企業が参入しにくいことについて、意見をうかがった。残念ながら明快な回答を得られなかった。
- ③ 青森県美術館は市街からは少し離れた三内丸山遺跡の隣にある。外観は大地に根付いたような建物だなというのが第一印象だった。建物内部も「大地」という言葉が浮かぶような作りになっていて、青森という風土と一体になっているような、個人的にすごく好きな建物だった。展示もシャガールのアレコに圧倒され、あおり犬等の奈良美智のコレク

	<p>ション、ウルトラマンの造形作家 成田亨の原画等見どころが一杯で、また訪れたい美術館だった。</p> <p>この美術館を見て感じたのは、目玉になる展示品があつて、それを活かすように建物がつくられているのだろうということである。</p> <p>それにしても美術館において建物の重要性を再認識させられた。</p> <p>鳥取県美においても、何を展示（活動）の目玉にするのか明確にし、それを活かす建物にすることが必要だと思う。</p> <p>④ 青森県内にある美術館で、青森県美のほかにもう一つ話題になっているのが、十和田市現代美術館である。展示作品の写真などをネットで見て、かなり期待していったが、少し期待外れだった。</p> <p>所管が観光推進課となっているように、十和田市はここを観光施設として捉えているようである。</p> <p>青森県美に感動した後だったせいも、十和田市現美は、それで何なの？という程度の感じしか湧いてこず、スゲーっというものが無かった。</p> <p>美術って何？、美術館って何？と、考えさせてもらうきっかけにはなったが…。</p> <p>⑤ 八戸市が新たな美術館を建設しようとしているということで、その準備室がどのようにして機運を盛り上げ、住民を巻き込もうとしているのか話を聞いた。取り組み自体は目を見張るようなことはなかったが、準備室の場所が街なかにあり、誰でもふらっと寄ることができる環境にあることは参考になった。</p> <p>⑥ 以前、難手地区のアーティスト・イン・レジデンスで招聘したアーティストの東方悠平氏が八戸におり、会おうということになって、待ち合わせしたのが Hacchi だった。</p> <p>予定にはなかったが、そこで東方氏から柳沢氏を紹介してもらって、Hacchi を案内してもらったが、これが十和田の現美よりも面白い空間だということがわかった。</p> <p>Hacchi はポータルミュージアムをあるように八戸の魅力を紹介している八戸の入り口となるような施設である。特に目立った展示がある訳ではないが、奥の人が集まる仕組みと仕掛けがあり、人のパワーというか熱気を感じられる面白い施設であった。</p> <p>芸術を通じて人の集まる場所として美術館があるとしたら、Hacchi は非常に参考になる施設だと思った。</p> <p>⑦ 3.11 の後の記録と記憶を残しているリアス・アーク美術館も訪れた。</p> <p>展示物は胸に迫るものがあったのは確かだが、私にとっては途中で通過した陸前高田や気仙沼の復興途上の様子のほうが印象に残った。</p>
<p>関連領収書番号</p>	<p>6-4</p>

政務活動報告書

活動事項	① 島根原子力発電所の視察
活動年月日	平成30年6月12日(火)
場所	① 島根原子力発電所 松江市鹿島町片句 654-1
活動の相手方	① 中国電力
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <p>① 島根原発の現状を調査するため。</p> <p>【内容】</p> <p>① 島根原子力発電所で新設中の3号機を視察した。</p> <p>【結果(成果)等】</p> <p>① 2号機の再稼働もそうだが、十分な安全対策を施したうえで、稼働を進める必要があると感じた。</p>
関連領収書番号	3-7、6-6

会派自民党・公明党・会派希望・福浜議員 政務調査日程案

平成30年5月25日現在

1 日時 平成30年6月12日(火)

2 調査先 島根原子力発電所

3 日程

時 間	場 所	備 考
11:40	鳥取駅発	スーパーまつかぜ5号
12:09	倉吉駅発	↓
12:41	米子駅発	↓
13:01	松江駅着	↓
	タクシー(約40分)	島根原子力発電所 一矢(いちや)案内所
13:45	島根原子力発電所 (松江市鹿島町片匂654-1)	現地調査及び意見交換 ・島根原子力発電所の安全対策について
15:45	電話:0852-82-2220	
	タクシー(約40分)	
16:30	松江駅着	
16:43	松江駅発	スーパーおき4号
17:08	米子駅着	↓
17:41	倉吉駅着	↓
18:16	鳥取駅着	↓

4 その他

- (1) 昼食は各自でお取りいただきますようお願いいたします。
- (2) JRの切符は各自でご購入いただきますようお願いいたします。
- (3) 当日は、自動車の運転免許証を必ずお持ちくださいますようお願いいたします。

政務活動報告書

活動事項	① 自治と共生のまちづくりについての研究 自治体学会主催「自治立志塾 in 豊中」に参加
活動年月日	平成30年6月30日(土)～7月1日(日)
場所	① 豊中市立文化芸術センター 豊中市曾根東町3-7-2
活動の相手方	① 講師 法政大学名誉教授 岡崎昌之氏 帝塚山大学名誉教授 中川幾郎氏 朝来市総合政策課 馬袋真紀氏
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <p>① まちづくりの実践・エリアマネジメントについて、改めて考える参考にするため。</p> <p>【内容】</p> <p>① 法政大学名誉教授の岡崎昌之氏の講義と帝塚山大学名誉教授の中川幾郎氏、兵庫県朝来市職員の馬袋真紀氏の鼎談を聞く。</p> <p>第1講 いま何故”まちづくり”再考か 第2講 都市部の問題と再生 第3講 小規模都市の問題と再生 第4講 鼎談：自立・自律を目指すまちづくり 第5講 総括 ～人口減少社会を超えて～</p> <p>【結果（成果）等】</p> <p>① 都市型（豊中市）と中山間地域型（朝来市）の実践事例について紹介されたが、改めて、まちづくりの主体の重要性について認識させられた。当たり前のことだが、自治体職員自らが地域住民の一人としてプレイヤーになっていくことが必要であり、自治を大切にしたい、自律できるまちづくりを自治体が支えていかなければならないと感じた。</p>
関連領収書番号	7-1

政務活動報告書

活動事項	① 所有者不明土地問題についての研究 東京財団政策研究所フォーラム「所有者不明土地問題を考える 政策動向と今後の論点を専門家が議論」に参加
活動年月日	平成30年7月17日(火)～7月18日(水)
場所	① ベルサール六本木コンファレンスセンター会議室 港区六本木3-2-1 住友不動産六本木グランドタワー9階
活動の相手方	フォーラム登壇者 早稲田大学大学院法務研究科教授 山野目章夫氏 野村総合研究所顧問、東京大学公共政策大学院客員教授 増田寛也氏 北海道ニセコ町長 片山健也氏 東京財団政策研究所研究員兼政策オフィサー 吉原祥子氏
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <p>① 所有者不明土地問題にどう取り組んでいけばよいのか考える参考にするため</p> <p>【内容】</p> <p>① 東京財団政策研究所フォーラム「所有者不明土地問題を考える 政策動向と今後の論点を専門家が議論」に参加した。</p> <p>【結果(成果)等】</p> <p>① これまで空き家の活用に取り組んできて、活用したくても所有者がわからず手が付けられない土地や建物の問題に以前から直面していた。活用できそうな物件ならまだいいが、誰も欲しくない使えない物件がたくさんあるのも実感してきた。</p> <p>そうした中で、中部地震が起こり、復興に向けた中で、この問題が顕在化することは指摘してきたところである。</p> <p>固定資産税が市町村の主となる税収である以上、国の問題として静観せず、自治体の存続の大きな課題として県としても真剣に向き合う必要があると思う。</p> <p>フォーラムの中でも話題に上っていたが、土地の公有化等も本気で研究し、持続可能な地域を創っていく必要がある。</p> <p>引き続き、国の議論を見守りつつ、取り上げていきたい。</p>
関連領収書番号	7-5



# 所有者不明土地問題を考える

—政策動向と今後の論点を専門家が議論—

7月17日(火) 18:30~20:00 / ベルサール六本木コンファレンスセンター

〈登壇者〉

(順不同、敬称略)

**山野目 章夫** (やまのめ あきお) 早稲田大学大学院法務研究科教授

福島市生まれ。国土審議会委員、NHK受信料制度等検討委員会委員、民事法務協会理事、日本土地家屋調査士会連合会顧問。エクス・マルセイユ第三大学客員教授(2003年3月、2006年3月)。主著に、『新しい債権法を読みとく』(商事法務、2017年)、『不動産登記法』増補(商事法務、2014年)、『物権法』第5版(日本評論社、2012年)。

**増田 寛也** (ますだ ひろや) 野村総合研究所顧問、東京大学公共政策大学院客員教授

東京都生まれ。東京大学法学部卒業後、建設省(現国土交通省)入省。その後、千葉県警察本部交通部交通指導課長、茨城県企画部鉄道交通課長等を経て、1994年、建設省建設経済局建設業課紛争調整官にて退官。岩手県知事(1995~2007年、3期)、総務大臣(2007~2008年)を経て、現在、株式会社野村総合研究所顧問、東京大学公共政策大学院客員教授。編著書に、『地方消滅』(中公新書、2014年)、『地方消滅 創生戦略篇』(中公新書、2015年)、『東京消滅—介護破綻と地方移住』(中公新書、2015年)。

**片山 健也** (かたやま けんや) ニセコ町長

北海道ニセコ町出身。民間企業勤務を経て、1978年ニセコ町役場入庁。町民総合窓口課長、会計管理者等を経て、2009年7月に退職。同年10月ニセコ町長に就任。現在3期目。就任以来、情報共有と住民参加による「住民自治」の実践と「持続する資源循環型経済」のまちづくりを進め、国等から「環境モデル都市」「プラチナシティ」「SDGs未来都市」の選定を受けている。現在、全国首長連携交流会代表、北海道水資源保全審議会委員等を務める。

**吉原 祥子** (よしはら しょうこ) 東京財団政策研究所研究員・政策オフィサー ※モデレーター

神奈川県生まれ。東京外国語大学卒。タイ国立シーナカリンウィロート大学へ国費留学。米レズリー大学大学院修了(文化間関係論)。1998年より東京財団政策研究所勤務。国土資源保全プロジェクトなどを担当。著書に、『人口減少時代の土地問題—「所有者不明化」と相続、空き家、制度のゆくえ』(中公新書、2017年)。

政務活動報告書

活動事項	① 山陰海岸ジオパーク推進三府県議会議員の会 総会・講演・現地視察
活動年月日	平成30年7月19日(木)
場所	① 山陰海岸ジオパーク館 美方郡新温泉町芦屋水尻
活動の相手方	① 山陰海岸ジオパーク推進三府県議会議員の会の会員
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <p>① 山陰海岸ジオパークの活動を推進するため。</p> <p>【内容】</p> <p>① 山陰海岸ジオパーク推進三府県議会議員の会の総会に出席し、講演を聴いた後、現地視察(浜坂港～三尾大嶋)を行った。</p> <p>【結果(成果)等】</p> <p>① 環境大学の柚洞准教授の講演を聞くまでは、ジオパークは単なる自然公園位にしか認識していなかったが、そうではなくて自然遺産を活かしたまちづくり活動だということが理解できた。</p>
関連領収書番号	3-7



政務活動報告書

活動事項	① これからの教育の在り方についての研究 オルタナティブ・スクール 箕面こどもの森学園の視察 ② 県内外の人や企業をつなぐ活動 平成30年鳥取県ファンの集い in 関西への参加
活動年月日	平成30年8月24日(金)～8月25日(土)
場 所	① 箕面こどもの森学園 箕面市小野原西6-15-31 ② リーガロイヤルホテル 大阪市北区中之島5-3-68
活動の相手方	① 箕面こどもの森学園 高原麗奈氏・福田麻衣氏 ② 主催 関西鳥取県人会
目的・内容 ・結果等	<p><b>【目的】</b></p> ① 学習指導要領に依らない教育を研究し、公教育の在り方を考えるため。 ② 関西在住の鳥取県関係者と交流するため。 <p><b>【内容】</b></p> ① 箕面こどもの森学園を視察し、高原氏と福田氏から話を聞いた。 ② 関西鳥取県人会主催の鳥取県ファンの集いに参加した。 <p><b>【結果(成果)等】</b></p> ① 現在の学校や教育の在り方について疑問に思っている人は多いはずだが、かといって、そのために何をすればいいのかの答えも見つけることができず、そのままやり過ごしている現状がある。それに対して、理想の教育とは、学校とは考えるために様々な学校を見、話を聞いてきた。 箕面こどもの森学園は「子どもの主体性を尊重する自由な学校を創りたい」という思いの有志が作り上げた、まさに私たちがやろうとしていることを実践している学校である。 残念ながら、台風の影響で授業が休みだったこともあり、先生から話を聞くだけだったが、今後の私の教育研究の方向性に大いに参考になった。 近い将来、私も理想の学校づくりの実践に踏み出したい。 ② 関西鳥取県人会の福山会長を始め、多くの方と話をすることができた。
関連領収書番号	8-13

政務活動報告書

活動事項	<p>① 生産性向上についての研究 事務部門での生産性向上に向けて、自治体のRPA導入事例の研究</p> <p>② 最新ロボット技術の動向調査 名古屋ロボデックスへの参加</p> <p>③ これからの教育の在り方についての研究 エリートを育てる教育について</p>
活動年月日	平成30年9月5日(水)～7日(金)
場 所	<p>① 京都府庁 京都市上京区下立売通新町西入藪之内町</p> <p>② ポートメッセなごや 名古屋市港区金城ふ頭2丁目2</p> <p>③ 学校法人海陽学園海陽中等教育学校 蒲郡市海陽町3-12-1</p>
活動の相手方	<p>① 京都府政策企画部 政策企画部長付理事 大中義勝氏 情報政策課 課長 長谷川景三氏</p> <p>② ロボデックスセミナー講師 川崎重工業(株) 取締役常務執行役員 橋本 康彦氏 ベッコフオートメーション(株) 代表取締役社長 川野俊充氏 富士通(株) デジタルサービス部門 AI サービス事業本部 担当 原 裕貴氏 三菱電機(株) 名古屋製作所長 小山 健一氏 ソニー(株) 執行役員ビジネスエグゼクティブ AI ロボティクスビジネスグループ 部門長 川西 泉氏 トヨタ自動車(株) 未来創生センター Z-フロンティア部 部長 菅 敬介氏</p> <p>③ 海洋中等教育学校 教頭・事務長 柴田哲彦氏</p>
目的・内容 ・結果等	<p><b>【目的】</b></p> <p>① 事務部門での生産性向上に向けて、RPA (Robotic Process Automation) の自治体での導入事例について、その効果や課題について調査するため。</p> <p>② ロボット技術の最新動向について調査するため。</p> <p>③ エリートを育てる教育について、その内容や成果・実績を調査するため。</p> <p><b>【内容】</b></p> <p>① 京都府庁でのRPA導入の状況について話を聞いた。</p> <p>② A. ロボデックス展示会に参加した。 B. ロボデックスセミナーを聴講した。 基調講演「ロボットが起こす生産革命」 ・ロボットと共存する日本の将来社会に向けて ～技能伝承など新たなロボットのあり方を提案する～ ・製造現場イノベーション最前線</p>

	<p>～AI ロボット活用による次世代ものづくり～  特別講演「ロボット×AI」AIは製造業をどう変える？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富士通のAI Zinraiによる製造業革命</li> <li>・e-F@ctoryとAI・知能化ロボットが  実現するスマートファクトリー</li> </ul> <p>～三菱電機が考える次世代のものづくり～  専門セッション「ロボット開発最前線」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・aiboから見るソニーのロボット事業への取組み</li> <li>・トヨタの見る未来のロボット社会</li> </ul> <p>～製品ロボットからヒューマノイドまで～</p> <p>③ 次世代のリーダーを育てるためにトヨタ自動車、JR 東海、中部電力の3社が中核となって作られた中高一貫校の海陽学園で、リーダーを育てる教育とはどういうものか話を聞いた。</p> <p><b>【結果（成果）等】</b></p> <p>① RPAの導入について京都府の現状について話を聞いたが、現場の理解を得ながら、少しずつ進めていることがわかった。  導入の成果が上がっていることは証明されており、鳥取県においても導入を進めるべく、他の事例を見ながら、引き続き提言していきたい。</p> <p>② 鳥取県のような人口が最も少なく、県民所得も低いところが、これからの時代を生き残っていくためには、世の中の大きな流れや最先端の技術などの情報をしっかりキャッチし、政策の方向を定めていく必要があることをこれまでも力説してきた。  それは、そうした技術をいち早く導入することだけを勧めているだけではなく、あえて最新技術を取り入れないで、他の道を選ぶということも含めてである。  そのような姿勢でICT、AI、ロボットなどの最新の技術動向に目配せをしてきて、議場でも取り上げてきたが、今回はロボットの最新動向についての情報収集を行った。さらに調査研究をし、知事への提言としていきたい。</p> <p>③ リーダーを育てるという大きなテーマを掲げている海陽学園だが、そもそもリーダーとは何かが明確になっていないように感じた。教頭もそのことを認めておられた。しかし、教育の方向性として重要なテーマの一つではないかと思う  これからもそれを模索されていかれることであろうから、更に動向を見守り、調査を続けていきたい。</p>
<p>関連領収書番号</p>	<p>9-4</p>

政務活動報告書

活動事項	① 生産性向上についての研究 事務部門での生産性向上に向けて最新の RPA の動向についての調査 ② 官民連携についての研究 美術館 PFI における県内企業の参入可能性についての調査
活動年月日	平成 30 年 9 月 12 日 (水) ~ 13 日 (木)
場 所	① グランドハイアット東京 港区六本木 6-10-3 ② 日本 PFI・PPP 協会 港区新橋 6-20-1 ル・グランシエル BLDG. 1 603
活動の相手方	① RPA テクノロジーズ株式会社 代表取締役 大角暢之氏 ② 日本 PFI・PPP 協会 会長兼理事長 植田和男氏
目的・内容 ・結果等	【目的】 ① 事務部門での生産性向上に向けて、最新の RPA の動向について調査し、鳥取県における RPA 導入の可能性について研究するため。 ② PPP・PFI 事業において地元企業が不利にならないように、美術館 PFI における県内企業の参入可能性とその方法について研究するため。  【内容】 ① 行政の事務部門における生産性向上を図るための RPA 導入の現状について現状を知るため、BizRobo!LAND に参加し、セッションを受講するとともに、主催者である RPA テクノロジーズ (株) の大角氏から話を聞いた。 ② 美術館で PFI が導入された際に、地元企業が SPC に加わるための仕組みについて、他の自治体の事例等について日本 PFI・PPP 協会の植田会長から話を聞いた。  【結果 (成果) 等】 ① 事務部門の生産性の向上の手法として、RPA の導入は多くの企業が取り組んでおり、県内の企業においても導入を推進していく必要がある。 県としては、RPA の普及に向けて啓発と支援を行っていくよう働きかけていくとともに、県庁業務の効率化に向けても、RPA の導入を図っていくようにさらに提言を続けたい。 ② 県立美術館規模の PFI 事業では、SPC が大手企業を中心に組まれることになり、地元企業が排除される恐れがある。そうならないための方法について、県内企業でグループをつくり、業務を引き受ける方法などがあることを教えてもらった。 業務効率推進課にも資料を渡し、地元企業が不利にならない PFI 手法について検討してもらった。
関連領収書番号	9-8

# 開催概要

BizRobo! LAND

---

2018/09/12(水) 09:00 ~  
2018/09/13(木) 17:10

---

グランドハイアット 東京 東京  
都港区六本木 6-10-3

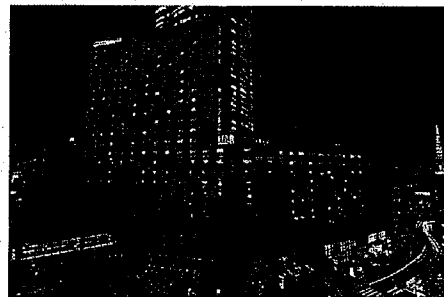
---

[主催] RPAテクノロジーズ株  
式会社

---

[メディアスポンサー] 株式会  
社レッジ  
※競合他社様の入場はお断り  
させて頂く場合がございます。  
す。

---



政務活動報告書

活動事項	隠岐ハイブリッドプロジェクトの視察
活動年月日	平成30年10月31日(水)～11月1日(木)
場所	旧隠岐空港メガソーラー 隠岐郡隠岐の島町岬町 県営隠岐大峯山風力発電所 隠岐郡隠岐の島町西村大峯山山頂 黒木発電所 隠岐郡西ノ島町大字美田字中田 2145 西ノ島変電所(ハイブリッド蓄電池システム) 隠岐郡西ノ島町美田尻地区
活動の相手方	中国電力株式会社 山陰電力所 副所長 松本栄治氏 変電課 吉田浩一氏 鳥取支社 副所長 村上浩美氏 倉吉営業所 所長 鹿嶋慎一郎氏
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 再生可能エネルギーの普及拡大に向けて蓄電技術の現状を知るため。</p> <p>【内容】 中電鳥取支社の村上副所長と倉吉営業所長に案内してもらって、隠岐ハイブリッドプロジェクトを視察した。</p> <p>【結果(成果)等】 隠岐ハイブリッドプロジェクトは、隠岐島という他から電力が入らない閉じられた空間で、蓄電池を使って、火力、水力、太陽光、風力を組み合わせながら電力の安定供給を図ろうとする実験である。 再生可能エネルギーによる発電は、どんどん拡大すればいいものではないということを私は全く知らなかった。 太陽光、風力など自然エネルギーは発電量が不安定なため、電力の安定供給には、水力や火力などの安定した発電をベースにして、その出力をコントロールすることで、需要と供給のバランスを取っていることを、今回初めて知った。 九州電力で太陽光発電による電力の受け入れを停止したというニュースもそういうことだったのかと理解できた。 その不安定な再生可能エネルギーによる発電を安定的にするために必要なのが蓄電技術だということである。 現在はリチウムイオン電池とNAS電池の2つの蓄電池を組み合わせる必要があるようだが、今後、技術革新が進めばもう少し単純な仕組みで可能になることを期待させるものだった。 いずれにしても、電力は安定供給が必須であることを学ぶことができた非常に有意義な視察であった。</p>
関連領収書番号	113

政務活動報告書

活動事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 県内外の人や企業をつなぐ活動 東京鴨水同窓会への参加</li> <li>② 県内外の人や企業をつなぐ活動 ほけんの窓口グループ株式会社訪問</li> <li>③ 県内外の人や企業をつなぐ活動 レンコンデザイン株式会社訪問</li> <li>④ これからのスポーツ振興についての研究 今後の国体の在り方についての調査</li> <li>⑤ これからの公共交通の在り方についての研究 自動運転の現状とこれからのについての調査</li> </ul>
活動年月日	平成 30 年 11 月 11 日（日）～14 日（水）
場 所	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 東海大学校友会館 千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 35 階</li> <li>② ほけんの窓口グループ株式会社 千代田区丸の内 1-8-2 鉄鋼ビルディング 20 階</li> <li>③ レンコンデザイン株式会社 品川区上大崎 2-15-19MG 目黒駅前ビル 2F</li> <li>④ 日本スポーツ協会 渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育館</li> <li>⑤ SB ドライブ株式会社 港区東新橋 1-9-2 汐留住友ビル 27 階</li> </ul>
活動の相手方	<ul style="list-style-type: none"> <li>① H30 東京鴨水同窓会の参加者</li> <li>② ほけんの窓口グループ株式会社 代表取締役会長兼社長 窪田泰彦氏</li> <li>③ レンコンデザイン株式会社 取締役/プロデューサー 柳沼亮氏</li> <li>④ 日本スポーツ協会 常務理事 森岡裕策氏 国体推進部国体課 課長 吉田優子氏 部長 岩田史昭氏 総務部総務課 課長補佐 添谷大輔氏</li> <li>⑥ SB ドライブ株式会社 COO 宮田証氏 企画部 改發壮氏</li> </ul>
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 県外で活躍している人や企業に県内企業への支援をお願いする。</li> <li>② 県外で活躍している人や企業に県内企業への支援をお願いする。</li> <li>③ フィギュアミュージアムへの首都圏からの誘客等、今後の展開について話を聞き、県として何が支援できるのか参考にする。</li> <li>④ 人口減少による県内の競技人口の減や、財政難による選手育成・スポーツ関連施設の整備・運営が困難になることが予測される中、2033 年の二巡目国体の開催に向けて何をすればいいのか、今後の国体の在り方について話を聞く。</li> <li>⑤ 八頭で自動運転の実証実験をしている SB ドライブに、自動運転の現状とこれからのについての話を聞き、県内での公共交通への自動運転の導入の可能性について考える参考にする。</li> </ul>

【内容】

- ① 倉吉東高校の東京での同窓会に出席して、フィギュアミュージアムの宣伝と出資について、支援のお願いをした。
- ② ほけんの窓口グループの倉吉市出身の会長兼社長にフィギュアミュージアムへの出資についてお願いした。
- ③ フィギュアミュージアムの首都圏からの誘客を図るための仕掛け等、今後の展開等の話を聞いた。
- ④ 鳥取県での次期国体の開催まで15年あるが、人口減・財政難が進み、状況は現在よりもかなり厳しくなることが予測される中、これからの国体の在り方について意見を交換した。
- ⑤ 自動運転の現状とこれからについてSBドライブ（株）の宮田COOと改氏に話を聞いた。

【結果（成果）等】

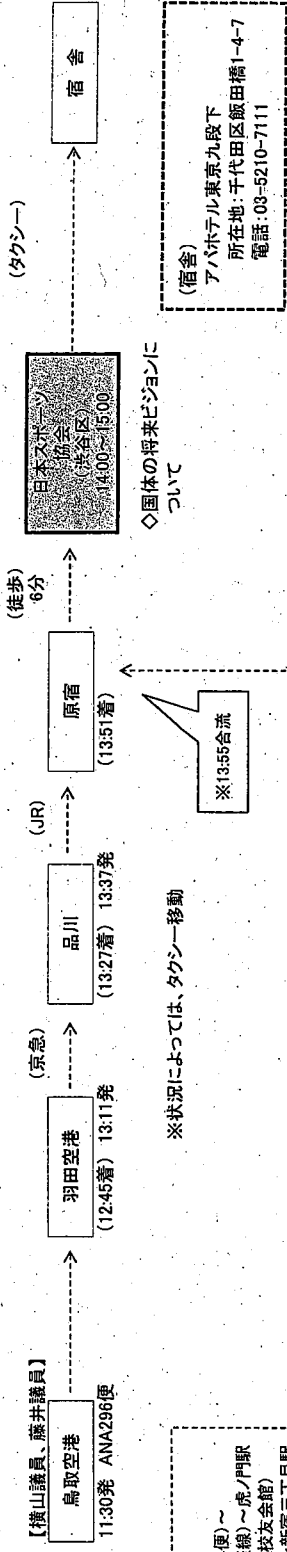
- ① 円形劇場くらしフィギュアミュージアムについてPRの時間をもらって、支援のお願いをした。出資の話までには至らなかったが、宣伝は充分できたと思う。  
今後、首都圏からの誘客にもしっかりと取り組んでいく必要がある中、この繋がりを活かしていきたい。
- ② 以前から何度か足を運んで、地元への貢献をお願いしてきたが、今回ははっきりと円形劇場への出資のお願いをした。こちらの思いは理解してもらったと思うが、良い返答は得ることができなかった。引き続き、中央で活躍する地元出身者ということでつながりは維持していきたいと思う。
- ③ フィギュアミュージアムのオープンの際に来賓のコスプレを仕掛けた柳沼氏に、今後の展開についてアイデアや思いを聞いた。  
面白い発想というのは、突飛のここのように聞こえるが、それを具体的にしていくことで、他とは違うことが実現できる。  
いろいろとアイデアを聞いたが、実現に向けて、こちらでできることを一緒にやっていきたい。
- ④ 鳥取県の二巡目国体の頃には、様々なことが現在とは変わっていることが予測される。e-Sports等の新しいスポーツへの対応、競技人口の減少、スポーツ関連予算の縮減など、そうした変化を見ながら、今から少しずつ準備していく必要がある。  
引き続き、情報収集しながら、人口減少時代、人口最少県の国体の在り方を探っていきたい。
- ⑤ 公共交通の自動運転の実現の可能性について特に話を聞いたが、現状ではまだまだ難しいとのことだった。  
とはいえ、走行中の様々な状況の変化に対する認識の技術（センサーとそれが何かを認識するAI）と、それに対してどういう対応をするのか判断するAI等の技術が今後さらに進化することは間違いなく、八頭での実験



	も見守りながら、これからも研究を続けていき、公共交通での導入を目指したい。
関連領収書番号	11-6

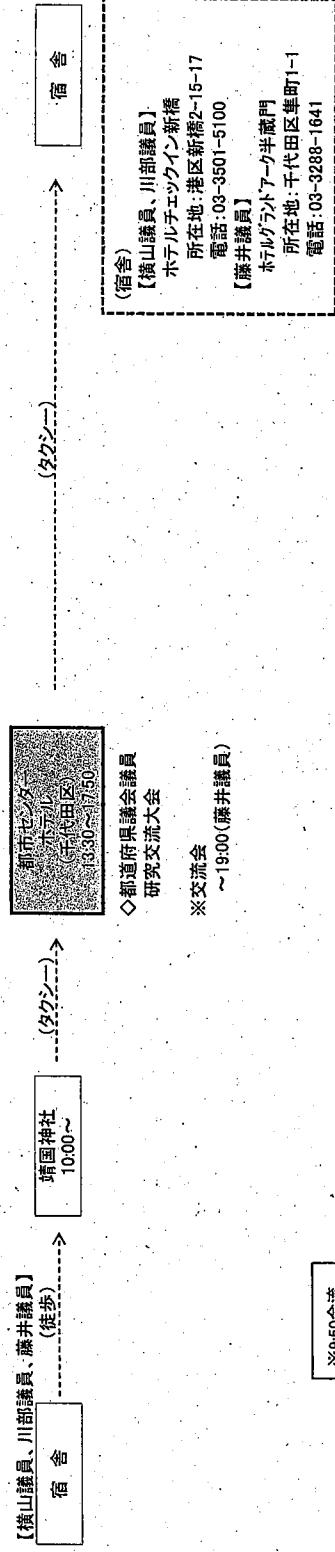
# 政務調査行程(11/12~11/14)

11月12日(月)



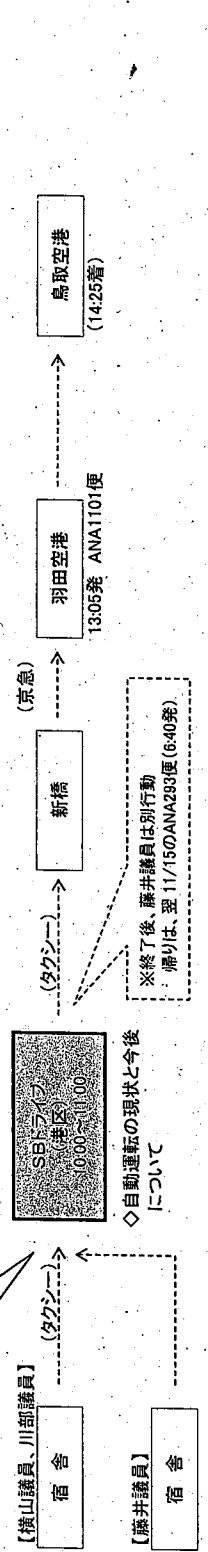
※川部議員は、前日から東京入り  
11/11(日) 鳥取空港(8:40発 ANA294便) ~ 羽田駅 ~ (京急) ~ 新橋駅 ~ (銀座線) ~ 虎ノ門駅  
12:00 東京輪水同窓会(東海大学校友会館) ~ 国会講堂前駅 ~ (丸ノ内線) ~ 新宿三丁目駅  
宿泊: セントラルホテル東京(新宿区新宿3-34-7)

11月13日(火)



都庁前  
ホテルエックイン  
(千代田区)  
13:30発~17:50着

11月14日(水)



SBトラピ  
(港区)  
10:00~11:00